

[illegible]

の選任による訴訟手続の進行が被告人の利益を害するものでなかつたことも先に説明した通りであり従つて本件においては不法に被告人等の弁護権を制限した点はないから公判手続は適法に行われたものというべく原判決に証拠として該公判における証人Eの供述及び公判において証拠調をした被告人Aの副検事に対する供述調書を引用しても何等手続に違背するものではなく採証の法則に違反するものでもない所論は独自の見地に立つて原審の公判手続を論難するものであつて採用し難く論旨は理由がない

長谷川弁護人控訴趣意について

原判決であげた証拠によれば原判決事実を認めることができるのであつて弁護人が引用した被告人若くは証人の右認定に反する供述部分は原審が採用しなかつたところでありこれをとつて原判決を論難するのは当らない

岩沢弁護人の被告人Cに関する控訴趣意第一点同Aに関する控訴趣意第一点について

要する原判決挙示の証拠によれば原判決事実をいずれもこれを認めることができ弁護人の引用する供述部分は原審が採らなかつたところで論旨は理由がない

同弁護人のAに関する控訴趣意第二点について

しかしながら原判決には被告人Aの副検事に対する供述調書の記載の外原審証人Eの供述をも引用しているのであつて右供述調書記載の被告人の自白のみによつて所論の知情の点を認定したものではないから論旨は当らない

以上本件控訴はいずれも理由がないから刑事訴訟法第三百九十六条に則りこれを棄却すべく訴訟費用の負担については同法第一百八十一条第一項を適用し主文のとおり判決した

(裁判長判事 竹村義徹 判事 西田賢次郎 判事 百村五郎左衛門)